

事務事業評価シート

評価実施年度：平成28年度

上位の施策名称 施策Ⅱ-5-3
地域生活交通の確保

1. 事務事業の目的・概要

事務事業担当課長

交通対策課長 田中 浩史

電話番号

0852-22-5898

事務事業の名称	JR利用促進事業	
目的	(1) 対象	JR線を利用する県民や観光客
	(2) 意図	利用しやすいダイヤや運転本数を確保することにより、JR線の利用促進を図る
事業概要	山陰本線、木次線、三江線、山口線の活性化を図るため、各協議会が実施する利用促進事業に対して支援を行う。	

2. 成果参考指標

成果参考指標名等		年度	27年度	28年度	29年度	30年度	31年度	単位
1	指標名	年間利用者数	目標値		6,350.0	6,350.0	6,350.0	千人
	式・定義	県内JR各駅の年間乗車人員の合計	取組目標値					
			実績値	6,350.0				%
2	指標名		目標値					
	式・定義		取組目標値					
			実績値					%
			達成率	-	-	-	-	

3. 事業費

	前年度実績	今年度計画
事業費(b)(千円)	2700(計画値)	1,700
うち一般財源(千円)	2700(計画値)	1,700

4. 改善策の実施状況

前年度の課題を踏まえた改善策の実施状況	②改善策を実施した(実施予定、一部実施含む)
---------------------	------------------------

5. 評価時点での現状(客観的事実・データなどに基づいた現状)

各線区の年間乗車人数

山陰線	H25: 約6,239千人	H26: 約5,872千人	H27: 約5,910千人
木次線	H25: 約310,000人	H26: 約261,000人	H27: 約263,000人
三江線	H25: 約53,000人	H26: 約56,000人	H27: 約55,000人
山口線	H25: 約95,000人	H26: 約106,000人	H27: 約121,000人

6. 成果があったこと(改善されたこと)

平成27年度、豪雨災害から復旧した三江線の利用者数については前年度からほぼ横ばいであったが、山口線の利用者数が豪雨災害発生以前の平成24年度の水準まで回復したことから、県内のJR線全体としての利用者数は、前年の利用実績を上回った。

7. まだ残っている課題(現状の何をどのように変更する必要があるのか)

- ①困っている「状況」
近年、JR西日本ではローカル線区の列車運転本数が削減されており、県内でも平成25年3月ダイヤ改正により、山口線で削減された。
- ②困っている状況が発生している「原因」
自家用車の普及や少子高齢化の進展により、山陰本線、地方ローカル線とも中長期的に見ると利用者数は減少傾向にある。
- ③原因を解消するための「課題」
木次線、三江線、山口線を含む県内のJR線については、沿線団体が実施する利用促進事業に対して支援を行うなど、引き続き利用促進に取り組むことが必要である。

8. 今後の方向性(課題にどのような方向性で取り組むのかの考え方)

県内各線区とも利用者が減少傾向であることから、更なる利用促進に沿線自治体と協力して取り組んでいく。特に、三江線について、県、沿線市町が一体となって、沿線地域のPR、魅力づくり、イベント開催、旅行商品造成などの観光キャンペーンに取り組んでいく。また、木次線においては、今年度迎える開業100周年を契機に、沿線市町と一体となって利用促進に向けた取組を強化していく。

- ・課(室)内で事務事業評価の議論を行うにあたっては、本評価シートのほか、必要に応じて、「予算執行の実績並びに主要施策の成果」や既存の事業説明資料などを活用し、効率的・効果的に行ってください。
- ・上記「5. 評価時点での現状」、「6. 成果があったこと」、「7. まだ残っている課題」、及び「8. 今後の方向性」について、議論がしやすいように、「5. 評価時点での現状→6. 成果があったこと」、又は「5. 評価時点での現状→7. まだ残っている課題→8. 今後の方向性」が一連の流れとなるよう、わかりやすく、ストーリー性のあるシート作成に努めてください。

9. 追加評価(任意記載)